

平成 24 年度(1) NBRP-情報-運営委員会 議事概要

開催日時: 2012 年 5 月 17 日(木)14:00~16:10

開催場所: 情報・システム研究機構 東京連絡所

出席者: 田畑委員長、川口委員、小林委員、長村委員、成瀬委員、仁田坂委員、深海委員、矢口委員、山崎委員、綿貫(松沢委員代理)

欠席者: 荒木委員、鈴木委員、増井委員、城石委員

オブザーバー: 文部科学省ライフサイエンス課 土屋ゲノム研究企画調整官、NBRP 佐藤事務局長、国立遺伝学研究所 鈴木知的財産室長、菅原

事務局: 研究推進課長、副課長、研究推進チーム職員

【議事】

報告事項

- (1)NBRP 情報センター整備プログラム採択について

山崎委員から資料1、及び3に基づき、申請内容及び採択額、各課題ごとの配分内訳に関する報告があった。また、本年度から GBIF の遺伝研代表について菅原元代表から山崎委員に交代した旨と、NBRP 事務局の業務に名古屋議定書(ABS)対応を含めることとなり、遺伝研鈴木知財室長が担当する旨の説明があった。

なお、委員から ABS 対応の内容に関する質問があり、鈴木知財室長より、日本の研究機関が海外から遺伝資源を受ける場合の適切な取り扱い方法や窓口に関する情報提供、また助言等を行っていきたい旨の説明があった。

山崎委員から、資料2に基づき、第3期採択に先立ち課題選考委員会から3点の質問があり、回答を行った旨の報告があった。

- (2)第 14 回生物遺伝資源委員会報告

山崎委員から、遺伝研に設置している生物遺伝資源委員会について説明があり、資料2に基づき、平成 23 年度委員会(3.27)の議事内容について報告が

あった。

また議事要旨については、今後ホームページに掲載予定である旨の発言があった。

審議事項

(1)平成 24 年度の計画について

課題1:リソースデータベースの整備

山崎委員から資料4に基づき、以下の目標及び計画について説明があった。

- 安定運用の継続
- 新規データベース構築(第3期に開始するリソースの支援)
- 改良改善と総合化
- 広報啓発活動

委員から、予算が減額されている状況での新規データベース構築対応について質問があり、山崎委員から、情報公開は最優先すべきと考えているが、今年度に全ての新規採択課題へ対応するとは限らず、「改良改善と総合化」との調整を図りながら順次対応していきたいとの発言があった。また、予算に応じ、自立的な管理システムについても情報交流のうえ、検討していきたいとの議論があった。

委員長から、統合 DB との将来計画についての進捗状況について質問があり、山崎委員から植物、微生物において一部協力関係にあるとの報告があった。

課題2:大型類人猿情報ネットワークの展開

綿貫委員代理から資料5に基づき、第3期の計画のうち、特に平成 24 年度の以下の目標及び計画について説明があった。

- 飼育施設訪問都最新情報の追加・更新
- 大型類人猿のゲノム・行動情報の収集
- 個体群管理及び提言

- 大型類人猿情報提供・国際化

なお、山崎委員から、京大グローバル COE プログラムの成果として、個体別のゲノム情報を GAIN のウェブページと統合させる作業を行っており5月中には公開予定である旨の補足説明があった。

課題3:地球規模生物多様性情報機構の日本ノードの活動

山崎委員から資料4に基づき、以下の目標及び計画について説明があった。

- ポータルサイトの運用
- 所在情報の収集
- 情報発信
- ノード委員会の開催

その他、菅原オブザーバから参考資料4、資料3及び6に基づき、H24.1～3 月にかけて琉球大学他7機関のサイトビジットを行った旨の報告があった。

山崎委員から、平成 24 年度より GBIF 日本ノード運営委員会の委員長が森脇先生に交代した旨の報告があった。

なお、委員から、環境省等他省庁で行う調査等の結果は GBIF に反映されているかとの質問があり、現時点では連携が取れていないので、もう少し大きな規模でプッシュしていく必要がある、との議論があった。

課題4:NBRP 事務局の活動

佐藤 NBRP 事務局長から資料7に基づき以下の目標及び計画について説明があった

- NBRP 事務局のミッション
- 実施計画(関係会議の関係実務、広報・普及に関する業務、プロジェクト推進のための支援業務)

委員から、NBRP を紹介する一般に向けた分かり易いパンフレットがあるとよいとの意見があり、局長から第3期の課題として検討したいとの発言があった。

鈴木知財室長から、配布資料に基づき、以下の目標及び計画について説明があった。

- 生物多様性条約一名古屋議定書の採択に伴う遺伝資源の取得と利益配分 (ABS) に対する対応体制の構築の背景
- 対応窓口のミッション
- 内容 (啓蒙活動、情報発信、相談窓口設置、情報収集分析、ABS 研究会における討論、関連会議参加、NBRP 各大学 MTA 関連相談)

(2) 第2期で終了したリソースに関する情報の取り扱いについて

山崎委員から資料8に基づき、第3期に継続されなかったリソースについて、残されたデータをどのように取り扱うべきかの問題提起と、過去の関連する議論について説明があった。その上で、もし NBRP 以外のデータを公開サイトにて取り扱う場合として、以下の3案が示され、意見交換をおこなった。

なお、本意見については、後日 NBRP 推進委員会へ提出することとした。

(案)

1. NBRP All(NBRP メンバー＋非メンバー)
 2. NBRP All(NBRP メンバー)、別枠で NBRPfriends(非メンバー)
 3. NBRP All(NBRP メンバー)、別枠で NBRPfriends or NBRP+(NBRP メンバー＋非メンバー)
- * 名称は仮称

(主な意見)

- NBRP 以外にも持っているリソース情報を置いておける場所があってもよいのではないか。
- 別枠分について、質の良し悪しは誰が決めるのか、NBRP 補助金から支出してよいものか。
- 別枠分について、生物遺伝資源委員会のようなところでまとめることも可能かもしれないが、「NBRP」の名が定着しつつある中では、NBRP 情報センターが行ってもよいのではないか。
- 別枠分を含めることで、NBRP 自体の付加価値が高まるとは言えないか。
- ユーザにとっては、情報がまとまって一つになっていた方が分かり易い。

- 採択されなかったリソースのデータ量は少なく、別枠として分けた場合には ALL とのバランスが偏るかもしれない。しかし、必要とする人がいたから今まで続いてきた経緯も考慮してよいのではないか。
- そのまま残しておく方法もあるのではないか。情報を削除する方がコストがかかるのではないか。
- 残しておき、〇年～〇年採択されていた、という記録として残しておいてもよいのでは。
- 別枠分について、NBRPf、のように区別できるタグをつけると分かり易いのではないか。
- NBRP から外れたものを今までの経緯で継続公開することは想定できるが、NBRP に関連なかったものを、新たに NBRP 予算で加えることについては、統合 DB との関連も考慮すべく、議論が必要ではないか。
- 採択されなかったリソースは今後採択される可能性もあるかもしれないが、その場合に規模が縮小している可能性も考慮し検討すべき。ユーザーは今までと同じレベルを求めていると思われる。
- 将来やこれまでの投資も考慮すると削除は行わない方がよい。
- クオリティの維持、活動状況等を確認すべきであるが、本委員会での範疇を超えるものではないか。また、結論は委員会では出せないので、上位委員会にて判断いただくことが望ましい。

なお、土屋調整官から、今回の意見を踏まえ、ライフサイエンス課でも検討を行いたいとの発言があった。

(3) その他

委員から、NBRP 推進委員会における議論の公開状況に関する質問があり、佐藤局長から NBRP 事務局のホームページにて公開しており、リソースによっては推進委員会の議事概要をコピーし運営委員会を出しているものもあるとの説明があった。

委員長から、今後追加意見等があれば、各自連絡をお願いしたい旨の発言があり、謝辞が述べられ閉会した。